

# 中山間地農業経営モデル

令和7年3月  
富山県農村振興課

令和2～4年度中山間農業者所得向上モデル事業の実績を基に作成

# はじめに

本県の中山間地農業は、過疎化や高齢化の進行による担い手不足が進むとともに、農地の生産条件の不利性や鳥獣被害の増加などが相まって厳しい状況にある。一方、豊かな自然、景観、気候、風土など地理的、自然的条件を活かして収益力のある農業ができる可能性を秘めている。

これまで中山間地域の特色を活かした農業経営の展開を通じて、農業所得の向上を図る中山間地農業経営モデルを確立するため、農業経営の複合化、6次産業化・高付加価値化、機械化・ICT化及びほ場改良等の取組みを組み合わせ、農業所得の向上に意欲的にチャレンジする農業者を対象に、令和2年度から3か年にわたり、中山間農業者所得向上モデル事業（以下「本事業」という。）により、ソフト・ハードの両面から総合的に支援してきたところである。

また、近年では、地域の潜在力や地域資源を活かし、若い担い手や移住者などの多様な人材が、空き家再生としての農泊、耕作放棄地の牧場利用、養蜂といった新しい取り組みを始めている。このような活動的な動きが県内中山間地域に新たな活力を生み出してきており、地域の未来を拓く魅力になってきている。中山間地域が活力ある魅力的な地域であるためには、そこで収益を得つつ多様な活動が展開される場所であることも必要となってきた。

本資料では、今後中山間地域で多様な地域特性を踏まえた持続的な農業・農村の取組みがイメージできるよう、令和2年度からの本事業に基づく成果として、「1 中山間地農業経営モデル」と、地元企業や複数の農家が連携した循環型農業の実践、JAのネットワークを基盤とした農機具のシェアリングや米集荷による地域との関わりなど、新たな動きとして「2 地域との多様な連携による新たな取組み事例」に分けて例示する。

# 1 「中山間地農業経営モデル」の例示

# (1) 中山間地農業経営モデルの基本的な考え方

## ア 試算の前提

- 本モデルでは、令和2～4年度に実施した「中山間農業者所得向上モデル事業」の事業実施主体の栽培品目から選定した。なお、中山間地域では、薬用シャクヤク、さつまいも、ソバ等様々な品目が栽培されているが、モデル試算に必要なデータが得られないことから試算対象から外している。
- 経営費は「中山間農業者所得向上モデル事業」の実績により設定した。
- 単価等の基礎データは「中山間農業者所得向上モデル事業」の事業実施主体の実績により設定した。
- 専従者は年間農業従事日数150日以上との者とし、準専従者は年間農業従事日数60日以上150日未満の者とした。
- 専従者の労働時間は2,000時間／人とし、準専従者の労働時間は1,200時間／人とした。  
年間労働時間の合計3,200時間を超える作業については、臨時雇用※を見込んだ。
- 臨時雇用の賃金は、時給1,121円(令和6年分農作業標準料金・賃金(富山市))で試算した。
- 果樹は成園、アスパラガスは植付け4年目で試算した。
- 水稻の経営類型は、主食用米の作付け割合を約6割と想定した。
- 栽培地によって異なる交付金は本モデルでは考慮しない。

※収穫期など作業の集中する時期への人材確保として、1日単位・短時間で人材募集ができる「富山あぐりマッチボックス」をはじめとするマッチングツールが増えており、利用条件を踏まえて活用いただきたい。

## イ 農業経営モデルの農業所得目標

専従者（年間農業従事日数150日以上との者）と準専従者（同60日以上150日未満の者）の各々1人あたり年間農業所得の平均所得の合計が750万円以上（いずれも従業員を除く）

本モデルは「中山間地域等直接支払交付金」「水田活用の直接支払交付金」の見込み額を加算することで、専従者と準専従者の各々1人あたり年間農業所得の合計が750万円以上を見込めるモデルとした。

# (2) 中山間地農業経営モデルの概要

## ア 農業経営モデル一覧

モデル		① 主食用米+加工用米+野菜		② 主食用米+加工用米+花き		③ 主食用米+加工用米+園芸		④ 主食用米+ハトムギ+園芸		⑤ 園芸	
経営形態		一戸法人		一戸法人		一戸法人		一戸法人		家族経営	
		専従+準専従+臨時雇用		専従+準専従+臨時雇用		専従+準専従+臨時雇用		専従+準専従+臨時雇用		専従+準専従+臨時雇用	
栽培面積	主食用米(てんたかく)	5.0ha	主食用米(てんたかく)	5.0ha	主食用米(てんたかく)	8.0ha	主食用米(てんたかく)	8.0ha	干し柿	1.1ha	
	主食用米(コシヒカリ)	14.0ha	主食用米(コシヒカリ)	14.0ha	主食用米(コシヒカリ)	10.0ha	主食用米(コシヒカリ)	10.0ha	アスパラガス	0.3ha	
	加工用米(てんこもり)	5.0ha	加工用米(てんこもり)	5.0ha	加工用米(てんこもり)	4.0ha	ハトムギ	4.0ha			
	さといも	1.2ha	りんどう	0.3ha	さといも	1.0ha	さといも	1.0ha			
					りんどう	0.15ha	りんどう	0.15ha			
	合計	25.2ha	合計	24.3ha	合計	23.2ha	合計	23.2ha	合計	1.4ha	
試算	粗収益	3,966万円		3,774万円		3,843万円		3,715万円		1,493万円	
	経営費	3,498万円		3,325万円		3,295万円		3,252万円		733万円	
結果	専従と準専従の各々1人あたり農業所得の合計	468万円		449万円		548万円		463万円		760万円	

# (3) 中山間地農業経営モデル① (主食用米+加工用米+野菜)

## ア 経営類型の概要

経営形態：1戸法人  
 経営類型：主食用米+加工用米+さといも

## イ モデルのポイント

- 自動給水栓、ドローン、草刈機の活用による水稲作業時間の削減
- 流込み施肥による水稲作業の省力化と単収向上
- 地域と連携した鳥獣害対策（電気柵等）の徹底による鳥獣被害の減少
- さといもの導入による冬季間の作業・収入の確保

## エ 経営モデル

【栽培面積】 25.2ha  
 主食用米  
     てんたかく 5ha  
     コシヒカリ 14ha  
 加工用米 5ha  
 さといも 1.2ha

【試算結果】  
 粗収益 3,966万円  
 経営費 3,498万円  
 農業所得 **468万円**

交付金 **約530万円**が見込まれる

【労働時間】  
 専従者 2,000時間  
 準専従者 1,200時間  
 臨時雇用 2,197時間



パソコンで自動給水栓を操作



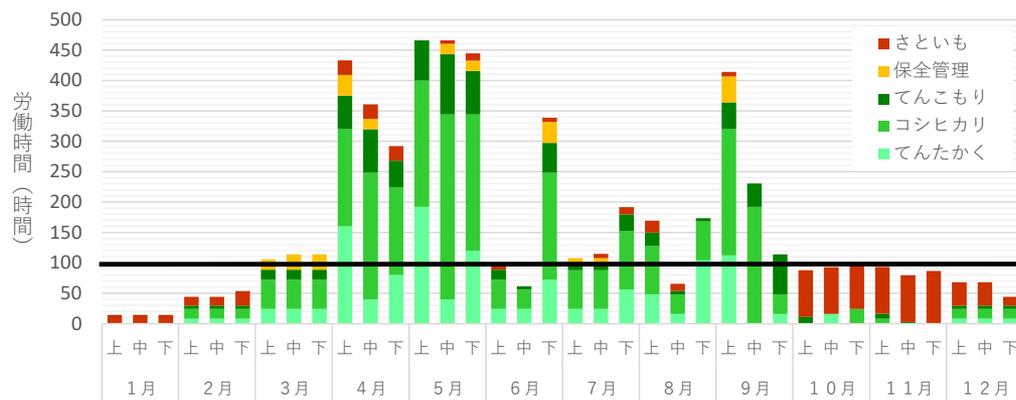
水管理システム

## ウ 主な機械装備

農作業舎	150㎡
トラクタ	50 P S級
ハロー	
ロータリー	
ブロードキャスタ	
田植機	8条施肥機付き
コンバイン	5条グレン
管理機	
スライドモア	
ラジコン草刈機	
自動給水栓	
うね立てマルチロータリー	
掘取機	
農業用ドローン	
トラック	2 t
軽トラック	
育苗ハウス	50坪



電気柵の設置



# (3) 中山間地農業経営モデル② (主食用米+加工用米+花き)

## ア 経営類型の概要

経営形態：1戸法人  
 経営類型：主食用米+加工用米+りんどう

## イ モデルのポイント

- 自動給水栓、ドローン、草刈機の導入による省力化
- 地域と連携した鳥獣害対策（電気柵等）の徹底による鳥獣被害の減少
- 平場より冷涼な特徴を活かし、実需ニーズが高いりんどうを栽培

## エ 経営モデル

【栽培面積】 24.3ha

主食用米  
 てんたかく 5ha  
 コシヒカリ 14ha  
 加工用米 5ha  
 りんどう 0.3ha

### 【試算結果】

粗収益 3,774万円  
 経営費 3,325万円  
 農業所得 449万円



交付金  
 約490万円が見込まれる



鳥獣対策の打合せ

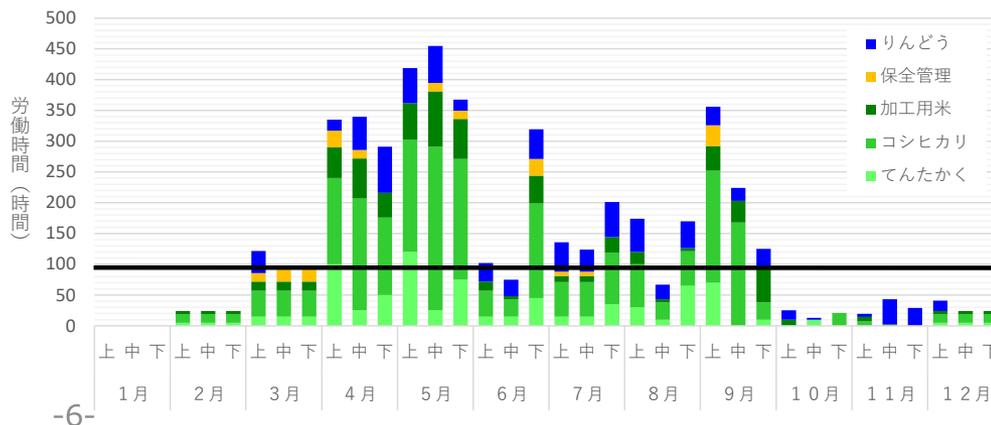


## ウ 主な機械装備

農作業舎	150㎡
トラクタ	50P S級
ハロー	
ロータリー	
ブロードキャスタ	
田植機	8条施肥機付き
コンバイン	5条グレン
管理機	
スライドモア	
ラジコン草刈機	
自動給水栓	
防除機	
結束機	
保冷库	1坪
農業用ドローン	
トラック	2t
軽トラック	
育苗ハウス	50坪

### 【労働時間】

専従者 2,000時間  
 準専従者 1,200時間  
 臨時雇用 2,760時間



# (3) 中山間地農業経営モデル③ (主食用米+加工用米+園芸)

## ア 経営類型の概要

経営形態：1戸法人  
 経営類型：主食用米+加工用米+さといも+りんどう

## イ モデルのポイント

- 新たな機械の投資がない加工用米と、園芸品目を栽培
- 自動給水栓、ドローン、草刈機の導入による農作業の省力化
- 冬季間の作業を確保するため、さといもを導入
- 平場より冷涼な特徴を活かし、実需ニーズが高いりんどうを栽培

## エ 経営モデル

【栽培面積】 23.2ha

主食用米  
 てんたかく 8 ha  
 コシヒカリ 10ha  
 加工用米 4 ha  
 さといも 1 ha  
 りんどう 0.2ha

【試算結果】

粗収益 3,843万円  
 経営費 3,295万円  
 農業所得 **548万円**



交付金  
**約510万円**が  
 見込まれる

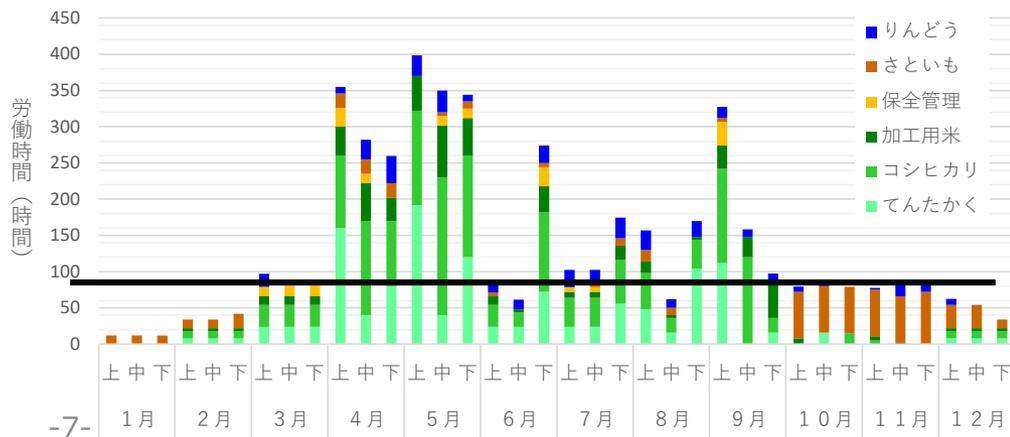
## ウ 主な機械装備

農作業舎	150㎡
トラクタ	50P S級
ハロー	
ロータリー	
ブロードキャスト	
田植機	8条施肥機付き
コンバイン	5条グレン
管理機	
スライドモア	
ラジコン草刈機	
自動給水栓	
うね立てマルチロータリー	
掘取機	
防除機	
結束機	
保冷库	1坪
農業用ドローン	
トラック	2 t
軽トラック	
育苗ハウス	50坪



【労働時間】

専従者 2,000時間  
 準専従者 1,200時間  
 臨時雇用 1,763時間



# (3) 中山間地農業経営モデル④ (主食用米+ハトムギ+園芸)

## ア 経営類型の概要

経営形態：1戸法人

経営類型：主食用米+ハトムギ+さといも+りんどう

## イ モデルのポイント

- ハトムギ生産への支援が手厚い地域のモデル
- ハトムギ後作の水稲栽培による単収向上
- 自動給水栓、ドローン、草刈機の導入による農作業の省力化
- 冬季間の作業を確保するため、さといもを導入
- 平場より冷涼な特徴を活かし、実需ニーズが高いりんどうを栽培

## エ 経営モデル

【栽培面積】 23.2ha

主食用米  
てんたかく 8ha  
コシヒカリ 10ha  
ハトムギ 4ha  
さといも 1ha  
りんどう 0.2ha

【試算結果】

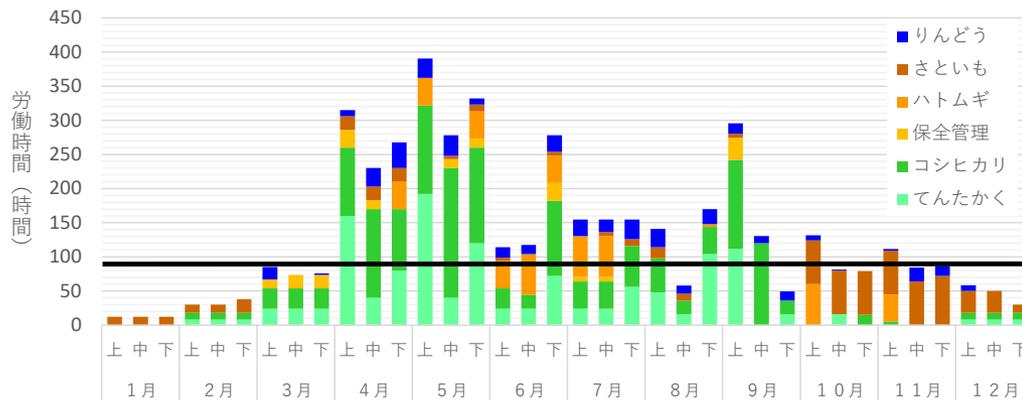
粗収益 3,715万円  
経営費 3,252万円  
農業所得 **463万円**



交付金  
**約870万円**が  
見込まれる

【労働時間】

専従者 2,000時間  
準専従者 1,200時間  
臨時雇用 2,166時間



## ウ 主な機械装備

農作業舎	150㎡
トラクタ	50P S級
ハロー	
ロータリー	
ブロードキャスト	
田植機	8条施肥機付き
コンバイン	5条グレン
管理機	
スライドモア	
ラジコン草刈機	
自動給水栓	
汎用コンバイン	
うね立てマルチロータリー	
掘取機	
防除機	
結束機	
保冷库	1坪
農業用ドローン	
トラック	2t
軽トラック	
育苗ハウス	50坪



ハトムギほ場



# (3) 中山間地農業経営モデル⑤ (果樹+野菜)

## ア 経営類型の概要

経営形態：家族経営

経営類型：干し柿（あんぽ柿）+アスパラガス

## イ モデルのポイント

- 干し柿産地におけるあんぽ柿の生産による高付加価値化モデル
- 干し柿加工作業ラインの改善による作業の効率化
- 台風等自然災害や病害虫の発生を見越した1～2割増しの原材料の生産・確保
- アスパラガス栽培による作業時間の平準化
- アスパラガスの通年採り栽培による収量向上

## エ 経営モデル

【栽培面積】  
干し柿 1.1ha  
アスパラガス 0.3ha

【試算結果】

粗収益 1,493万円  
経営費 733万円  
農業所得 760万円



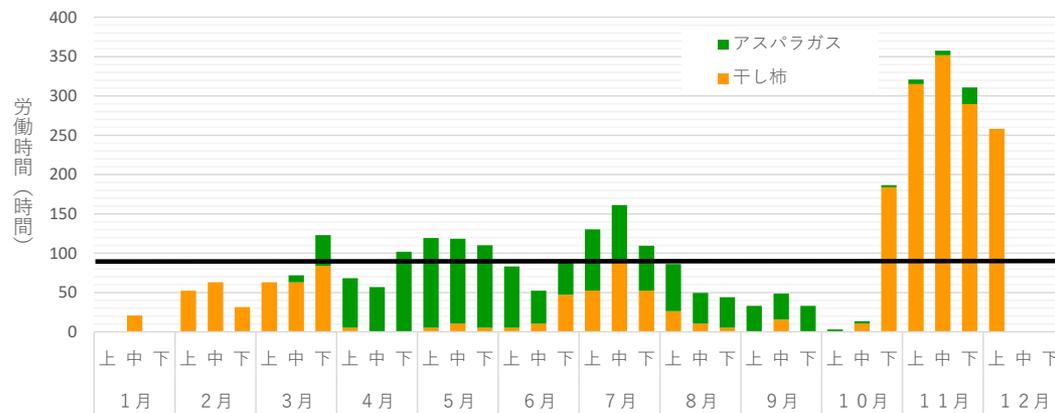
交付金 約20万円が見込まれる

【労働時間】

専従者 2,000時間  
準専従者 1,200時間  
臨時雇用 1,253時間

## ウ 主な機械装備

農作業舎	150㎡
トラクタ	40PS級
軽トラック	
干し柿台車	L鋼キャスター
自動へたり機	
自動皮むき機	吸引式
遠赤外乾燥機	
選果機	重量式
高所作業車	クローラタイプ
スピードプレーヤ	自走600L
乗用草刈り機	90cm
枝破碎機	
シール機	



## 2 地域との多様な連携による 新たな取組み事例

<事例①>

中山間地域における有機農業の取組み 【富山市】 (有)土遊野

<事例②>

半農半Xの取組み 【立山町】 白雪農園



# (1) 地域との多様な連携による新たな取組み事例①

## 中山間地域における有機農業の取組み事例

【富山市】 (有)土遊野

### ウ 取組みの工夫：中山間地農業を付加価値に変え、農産物を直売しファンを獲得

- 「生産性・生産効率」のみならず、中山間地ならではの風土や土質、自然環境との調和などを強みにする。
- 養鶏では地元企業の酒粕、おから等の食品残渣や、いら農家やこまつな農家の出荷残渣等を飼料とし、飼料自給率を高めながら、さらに平飼い鶏舎から得られる鶏ふん堆肥を、米作り野菜作りに活用している。
- 水稻は、自家製鶏ふん堆肥や米ぬかペレット等による化学肥料に頼らない土づくり・施肥を実施。冬季湛水、米ぬかペレットによる抑草に加え、中耕除草機・ロボット除草機やアイガモの活用、大豆や大麦との輪作で地力を向上している。
- 通信販売や飲食店など直売をメインとし、すべて自ら価格を決定している(例：米1,000円～1,200円/kg)
- 有機米は海外寿司店への輸出にも取り組み、日本の中山間地の風土の豊かさや資源価値を世界にも発信している。
- 有機米は日本酒や本みりん、米粉にも加工、また卵も活用しプリンや焼き菓子などの6次化にも取り組む。
- ファームツアーを積極的に行い、どんなところで、どのように、そしてどうして中山間地で農業をしているか直接伝え、消費者に「いただきますの原体験」として体感してもらうことを大切にしている。



# (1) 地域との多様な連携による新たな取組み事例②

## 半農半Xの取組み事例

【立山町】 白雪農園

### ア 経営の概要

- 農業・体験・農泊・地域・福祉・教育など多様な事業を展開
- 水稲（自然栽培）2ha（2024年）水稲育苗4,000枚（JA委託）
- 大豆、ぶどう、さつまいも等多品目を栽培 3a
- 加工 餅、米粉、味噌、醤油、豆腐
- 労働力 専従1名、地域の仲間（パート）養蜂（3群）ポニー（2頭）
- ゲストハウス3軒を運営（白雪ゲストハウス：末谷口&吉峰、宿坊立山）



### イ 取組みの展開と特徴

- 2016年 家族で東京より移住。とやま農業未来カレッジ入学し、農業の基本を学ぶ
- 2018年 白雪農園を設立。白雪ゲストハウス（富山県第一号の民泊）立ち上げ
- 2019年 水稲開始、耕作放棄地の管理でポニーを導入
- 2020年 空き家再生事業開始
- 2021年 クラウドファンディングで「白雪牧場」整備、立山収穫祭を初開催
- 2022年 養蜂開始（立山養蜂園・最適土地利用対策）
- 2023年 立山農学校（農家育成プログラム）、市民農園「コモンズ立山」開始
- 2024年 巡礼宿「宿坊立山」（農村RMO農泊プログラム）を立ち上げ、農泊3軒へ
- 2025年 立山自然栽培組合設立、エコビレッジ「立山村」準備開始



# (1) 地域との多様な連携による新たな取組み事例②

## 半農半Xの取組み事例

【立山町】 白雪農園

### ウ 取組みの工夫 : 地域内外の多種多様なつながりを基盤に多様な事業展開

- 投資 : 農業機械は中古品を地域の離農した方から無償・安価で譲渡してもらい、初期投資はほとんどない。さらに、仲間と農機具シェアリングを行うことで、維持管理費の負担も抑えている。白雪牧場・養蜂・農泊はクラウドファンディング・最適土地利用・農村RMO活用して自己資金負担を抑えている。
- 基盤 : 新規就農時より、水稻育苗と米集荷（アルバイト）に参加し、JAアルプスとの深い繋がりを築く。就農時から水稻育苗による現金収入を確保しながら、JAアルプスの持つ地域ネットワークを土台として、中古農機具の取得や地域案件の獲得などJA担当者より様々なサポートを受けている。
- 雇用 : 多様な事業を行うも、専従スタッフ1名と地域の仲間数名（臨時パート）で運営している。できるだけ雇用を抱え込まないよう、食品加工などは内製化せず地域の業者と積極的に連携している（味噌・餅など）。
- 農泊 : 既存の住宅を利用して、最低限のリノベーションで農泊を立ち上げた。成功（損益分岐点）のハードルを下げつつ、農作業に支障が出ないように「宣伝・食事・おもてなし」をなくして無理なく運営している。
- 地域 : 農と食を楽しむ「立山収穫祭」を2021年より毎年文化の日に開催している。里山の暮らしを体験する週末プログラム「里のようちえん」を開催し、沢山の親子を集めている。「農家を育てる農家」として、「立山農学校」（自然栽培講座）、市民農園「コモンズ立山」を主催し、新規就農者を育成している（5年連続）。

